

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[28]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[8]年、階級[消防士長]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[35]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[13]年、階級[消防副士長]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[30]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

.....

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A・B・C	要救助者の容態の確認	
経過2	A・B・C	車両の周囲及び油漏れ等の二次災害の防止	
経過3	A	エンジン停止及びサイドブレーキの確認	
経過4	B	車輪止めの設定	
経過5	A・B	空気式エアージャッキのマット設定	
経過6	C	空気式エアージャッキの設定及び送気	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：救出活動を実施する前の最終確認を怠った。

○ヒヤリハット事例：マット型空気ジャッキを活用した、車両の持ち上げ時におけるヒヤリハットについて
（同様の体験は、初めて体験した。）

(07H0310)

・発生日時：平成15年4月 午後3時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		隊員/消防士長 ・年齢 28 歳 ・勤続 8 年 ・現場 8 年 ・同様の活動:過去に1, 2回程	隊員/消防副士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 13 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:過去に1, 2回程	消防士 ・年齢 30 歳 ・勤続 7 年 ・現場 7 年 ・同様の活動:過去に1, 2回程	
自転車 横断歩道 女性 大型ダンプカーの左後輪ダブルタイヤの間に挟まれていた 要救助者の容態の確認 車両の周囲及び油漏れ等の二次災害の防止 エンジン停止及びサイドブレーキの確認 車輪止めの設定(前輪のみ) 隊員間の作業を相互に確認せず 空気式エアージャッキのマット設定 空気式エアージャッキの設定及び送気 マットからずれて車両が落下した。幸い車両が前方にずれたため、要救助者には影響はなかった 左後輪を持ち上げる作業を行う作業。 該事故に出場した全隊員がベテランであったため油断があり、お互いの確認作業を怠ってしまった					

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか

○直接的な原因：状況判断に問題があった。行動の実行に問題があった。
・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

(心理・体調について)
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
(装備・資機材について)
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。
(活動環境について)
・野次馬が多かった。
(指揮・管理について)
・隊員の連携が不十分だった。
(その他)
・救出活動を実施する前の最終確認を怠った。